渋川地区広域市町村圏振興整備組合地球温暖化対策実行計画（事務事業編）における令和７年度の実績報告

■温室効果ガス削減目標

渋川地区広域市町村圏振興整備組合が実施している事務及び事業に関し、省エネルギー、省資源、廃棄物の減量化などの取組を推進し、温室効果ガスの排出量を削減することを目的として、「渋川地区広域市町村圏振興整備組合地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」を令和７年３月に策定しました。

本計画では、令和７年度（2025年度）から令和１２年度（2030年度）までの６年間について、温室効果ガスの排出量の削減目標を次のとおり設定しています。

目標：令和１２年度までに、基準年度平成２５年度比４６％削減

■令和７年度温室効果ガス排出量

当組合が行う事務事業から排出される温室効果ガス排出量の令和７年度実績は、基準年度（平成２５年度）と比較して１３．２％減少の結果となり、減少傾向となっています。

年度ごとの二酸化炭素排出量

年度	二酸化炭素排出量（t-CO2）	二酸化炭素増減率（前年度比）	二酸化炭素増減率（基準年度比）
平成２５年度（基準年度）	19,044.2		
令和６年度	17,316.0		
令和７年度	16,522.9	-4.6%	-13.2%

温室効果ガスの種別ごとの排出量

活動の区分		温室効果ガス総排出量（t-CO_2）			増減率（前年度比）	増減率（基準年度比）
		H25	R6	R7		
燃料の使用	ガソリン	142.6	94.1	93.1	-1.0%	-34.7%
	灯油	242.2	359.1	312.1	-13.1%	28.9%
	軽油	83.6	55.4	54.0	-2.5%	-35.4%
	A重油	411.9	211.4	211.4	0.0%	-48.7%
	ＬＰＧ	19.9	11.9	11.5	-3.4%	-42.4%
	都市ガス	50.9	36.8	40.0	8.8%	-21.5%
他人から供給された電気の使用		3,307.9	82.6	85.0	2.9%	-97.4%
一般廃棄物の焼却（合成繊維）		1,485.7	1,335.3	1,330.7	-0.3%	-10.4%
一般廃棄物の焼却（プラスチックごみ）		12,606.1	14,566.0	13,824.3	-5.1%	9.7%
一般廃棄物の焼却（連続燃焼式）		657.9	526.0	524.2	-0.3%	-20.3%
下水・し尿の処理（し尿処理施設）		26.9	29.3	28.4	-3.2%	5.5%
浄化槽の使用		4.8	5.5	5.5	0.0%	14.0%
自動車の走行		3.3	2.5	2.4	-3.0%	-27.7%
自動車用エアコンの使用		0.5	0.5	0.5	0.2%	-6.2%
合計		19,044.2	17,316.0	16,522.9	-4.6%	-13.2%

※端数処理により、合計欄と数値の合計が一致しない場合があります。

区分ごとの使用量等

活動の区分		使用量			増減率（前年度比）	増減率（基準年度比）
		H25	R6	R7		
燃料の使用	ガソリン(ℓ)	53,622	40,525	40,107	-1.0%	-25.2%
	灯油(ℓ)	97,177	144,200	125,322	-13.1%	29.0%
	軽油(ℓ)	32,339	21,413	20,883	-2.5%	-35.4%
	A重油(ℓ)	152,000	78,000	78,000	0.0%	-48.7%
	ＬＰＧ(m^3)	3,036	1,399	1,747	24.9%	-42.5%
	都市ガス(m^3)	24,479	18,946	20,163	6.4%	-17.6%
他人から供給された電気の使用(kwh)		6,291,430	6,018,707	5,997,117	-0.4%	-4.7%
一般廃棄物の焼却（合成繊維）（t）		649	584	582	-0.3%	-10.4%
一般廃棄物の焼却（プラスチックごみ）（t）		4,559	5,268	5,000	-5.1%	9.7%
一般廃棄物の焼却（連続燃焼式）（t）		38,882	34,945	34,826	-0.3%	-10.4%
下水・し尿の処理（し尿処理施設）（m^3）		21,932	22,364	21,655	-3.2%	-1.3%
浄化槽の使用(人)		2,676	2,904	2,904	0.0%	8.5%
自動車の走行(km)		332,508	265,144	257,099	-3.0%	-22.7%
自動車用エアコンの使用(台)		432	432	433	0.2%	0.2%

■今後の取組み

温室効果ガス排出量は基準年度比の削減目標に近づきつつあります。

これは主に、当組合が所有管理する高圧電力施設５施設において、非化石証書を活用した、再生可能エネルギー（二酸化炭素排出量ゼロ）の電力を導入していることが大きく寄与したものです。

今後は、電力の再生可能エネルギー化にとどまらず、温室効果ガス全般の更なる排出抑制に向けて、一般廃棄物の焼却量、灯油・重油・ガソリンなどの燃料使用量の削減などにも取り組んで参ります。

※非化石証書・・・石油や石炭などの化石燃料を使っていない「非化石電源（電気をつくる方法)」で発電された電気が持つ「非化石価値」を取り出し証書にしたもの。